



甑と甕を手にとって見る生徒

甑 : 穀物を蒸して食べるために用いた土器のこと。

森岡1号窯跡 : 大府市に所在する平安時代末期の窯跡。山茶碗のほか、皿や鉢を焼いていたことが発掘調査の

結果判明した。

朝日遺跡 : 弥生時代の遺跡で、環濠を持つ大規模な集落があった。

パレス式土器 : 朝日遺跡など弥生時代の尾張地方を中心に見られる出土した土器で、白地にベンガラで鮮やか

に装飾された土器の通称。クノツス宮殿の装飾を彷彿(ほうふつ)させるところからこのような名称が

用いられている。

S字甕 : 弥生時代末から古墳時代にかけて使われた煮炊き用の土器。台付S字状口縁土器で通称S字甕。甕

本体の下部に台がつき、口縁を折り曲げた形がS字に似ているためこのような名称がついている。

高校生のためのサマーセミナーを開催しました。

調査研究課の鶴飼です。

8月9日(水曜日)に高校生のためのサマーセミナーを開催し、今年度は県内各地から18名が参加しました。今年度は以下の講座を開きました。

講座1 歴史学・考古学をめざすには～歴史学・考古学へのアプローチを考える～

講座2 施設見学～発掘調査のその後を考える～

講座3 出土遺物に触れるその1 出土した土器から歴史を考える

講座4 出土遺物に触れるその2 土器の文様をうつす

講座1は調査センター職員から、歴史を学ぶ意味や文献史学と考古学の違い、歴史が学べる大学や就職先について説明しました。参加者は文献史学と考古学の特徴や、進学・就職先について深く考えるよい機会になった様子が、表情からうかがえました。

講座2は館内を案内し、遺跡から出土した遺物の接合・実測や木製品の保存処理作業、遺物の収蔵・展示を見学しました。参加者は初めて見る作業に驚き、職員の説明を熱心に聞いていました。

講座3は朝日遺跡(清須市等)から出土した土器を用意し、直接手に取ってもらう体験です。職員が土器の重さや手触りなどの特徴を手に取りながら説明したところ、参加者ははじめて触れる土器に少し緊張気味でしたが、次第に積極的に触れるようになり、お互いに感想を述べ合っていました。

講座4は土器の文様を拓本で写し取る実習です。拓本の出来栄は優れたものが多く、参加者は楽しんで取り組んでいました。作成した拓本はラミネートして、オリジナルのしおりを作りました。

セミナー全体の取り組みを通じ、生徒の皆さんが歴史や考古学に対して強い興味・関心を持っていることを職員一同深く感じることができました。今回のセミナーをきっかけに、歴史や考古学に対する興味を一層強く持ってもらえたものと思います。来年もサマーセミナーで歴史や考古学に興味を持つ高校生の皆さんと会えることを楽しみにしています。

朝日(あさひ)遺跡:清須市から名古屋市西区に広がる、東海地方最大規模の弥生時代の集落遺跡です。昭和46年、遺跡内に所在する弥生時代前期の貝殻山貝塚(かいがらやまかいづか)が国の史跡に指定され、平成24年には遺跡から出土した遺物2028点が国の重要文化財に指定されました。



歴史学・考古学へのアプローチを考える



発掘調査のその後を考える



出土した土器から歴史を考える

土器の文様をうつす

北野田A遺跡発掘調査が始まりました。

調査研究課の岡田です。

8月17日から**北野田A遺跡**（豊田市蕪木町）の発掘調査が始まりました。「活動報告」でも取り上げた北野田C遺跡の隣です。

8月25日までに表土掘削が終わり、現在は遺構検出を行っています。発掘の様子や出土遺物については随時「活動報告」で報告します。

以前紹介したヤマドリも北野田A遺跡に引っ越してきました！それどころか山道を移動中の車に競走を挑めます。山の斜面を車よりも早く駆け抜けていきます。



上：遺構検出中の北野田A遺跡。たくさんのピット(穴)が検出されています。

下: ほぼ毎日姿を見せるヤマドリ。自然環境を守らなくてはならないため、もちろん餌付けなどしていませんが、人間のすぐ近くまでやってきます。

遺構: 竪穴住居、穴、溝などの昔の人々が生活した跡痕。

北野田C遺跡発掘調査が終わりました。

調査研究課の岡田です。

平成29年5月10日から発掘を始めた北野田C遺跡(愛知県豊田市蕪木町北野田)は8月10日に調査を終えることができました。

6月後半に入り、谷底近くから木製品・または加工された跡が残る木片が大量に出土しました。そのため、当初の予想以上に掘削に時間を取られました。

出土遺物は中世の山茶碗、木製品またはその分割材ですが、青磁の破片も出土しています。発掘の様子・出土遺物については「発掘調査報告」にまとめて掲載しますので、こちらをご覧ください。

山の中とはいえ、蒸し暑い中作業を進めてきました。しかしさっと吹く風は涼しく、時折顔を見せる動物たち(昨日は蛇がカエルを追いかけていました!)を見ると暑さも忘れれます。現場ではひぐらしも鳴きはじめました。

さて、発掘調査も終わり...ではなく、約150m北の北野田A遺跡の調査に着手します。発掘調査の進捗は「活動報告」でお知らせいたします。



左: 谷底で見つかった木材、石。湧水(ゆうすい)をためるための堰(せき)なのでしょうか

右: 発掘調査を終えた北野田C遺跡全景

分割材: 木製品を製作するために必要な原材を確保する際に切り払われた枝類や割られた板材

8月2日更新 愛知県立岡崎高等学校の生徒が施設見学のため来館しました。

調査研究課の鶴飼です。

7月27日(木曜日)に愛知県立岡崎高等学校2年生の生徒19名と引率の先生1名が、当センターに施設見学のため来館しました。

所長のあいさつの後、2グループに分かれて館内を見学しました。調査センター職員が遺物の整理作業の手順や収納の様子を説明し、愛知県埋蔵文化財センターの職員からは、昆虫の羽根やケイソウを分析すると遺跡周囲の生活環境が分かることを説明しました。生徒たちは木製品が水槽に保管されていることや、遺跡から採取した土からいろいろな情報が得られることを聞いて、強い印象を持ったようでした。

館内の見学後は遺跡から出土した土器に触れてもらい、拓本を体験しました。生徒たちは調査センター職員から土器の特徴や見方について説明を聞きながら、お互いに土器に触れた印象を語り合っていました。拓本では土器の破片を用いてしおりを作りました。職員が拓本の手順を説明して実習に移りましたが、引率の先生も参加して全員楽しく作業を行いました。最後に生徒たちから寄せられた質問に答え、希望者は2階の展示施設を見学しました。

2時間という短い時間でしたが、生徒たちは整理作業を見学して出土遺物に触れ、拓本体験を行ったことで、考古学に一層興味を持ったようでした。



館内案内



土器に触れる



拓本の実習



質疑応答

第29回 愛知サマーセミナー2017に参加しました。

愛知サマーセミナー2017に参加しました。

このセミナーは主に高校生を対象に開催されたもので、7月15日から17日までの3日間、同朋大学で「学ぶことは本来楽しいこと」、その喜びを共有することを目的に開催されました。

愛知県埋蔵文化財調査センターは7月15日に東海高校の父母懇談会の協力を得て、講座「弥生時代を体感しよう！～本物に触れよう～」を開講しました。午前9時半に始まり、午後4時10分までに1限80分間の講座を4限行いました。

まず東海地方最大級の弥生時代の遺跡である朝日遺跡を説明し、職員から土器に触れる際の留意点を説明した後、実際に朝日遺跡から出土した縄文土器と弥生土器に触れてもらいました。最初、講座参加者は恐る恐る土器に触れていました。慣れてくると、普段はガラス越しにしか見ることのできない土器を持って、その感触と重量を感じていました。「この土器は重いね」、「この土器は見かけより軽い」、「表面がザラザラしている」、「こっちはツルツルだ」などの声がありました。最後に朝日遺跡から出土した土器を使って拓本体験を行い、出来上がった拓本はラミネート加工し、栞(しおり)にして持ち帰ってもらいました。

東海高校の父母懇談会のご助力もあり、一日で169名もの受講がありました。多くの人たちに喜んでもらえ、大変手応えのある講座でした。

当センターでは講座、講演などの依頼を受け付けています。ご希望する団体、組織の代表の方は下記の連絡先に連絡ください。なお、受付日時は平日の午前9時から午後5時までです。

連絡先 愛知県埋蔵文化財調査センター 調査研究課 TEL 0567-67-4164

担当 佐藤

メールアドレス maizobunkazai@pref.aichi.lg.jp

朝日(あさひ)遺跡:東海地方最大級の弥生時代の集落遺跡。清須市から名古屋市北区に広がる。昭和46年には遺跡内にある弥生時代前期の集落が所在する貝殻山貝塚(かいがらやまかいづか)が国の史跡に指定され、平成24年には遺跡から出土した遺物、2028点が国の重要文化財に指定されている。



受講風景



土器に触れる



拓本をとる

7月12日、一宮市博物館の方が、資料借用のため来館しました。

調査研究課の鶴飼です。

7月12日(水曜日)、一宮市博物館の学芸員の方が、夏休みの展示に使用するため遺物の借用に来館されました。今回貸し出された遺物は、朝日遺跡で出土した円窓付(まるまどつき)土器、名古屋城三の丸遺跡で出土した石包丁(いしぼうちょう)です。



貸出しの様子

平成29年度夏季小展示「なんで穴があいているの?～穴の向こうに広がる世界～」は平成29年7月15日(土曜日)から8月27日(日曜日)まで、一宮博物館で開催中です。ぜひお出かけください。

円窓付土器: 壺形土器の胴部に、直径10センチ前後の穴がけられている土器です。尾張地方の集落遺跡で出土しますが、用途不明の謎の土器です。

朝日遺跡:清須市・名古屋市西区に所在する、東海地方を代表する弥生時代の集落遺跡です。

石包丁:弥生時代に使われた、半月形をした扁平(へんぺい)な石器です。石器には2か所に穴が明けられ、ひもを通して稲穂を刈り取るために使われました。

名古屋城三の丸遺跡:名古屋市中区に所在する遺跡です。戦国時代の溝や江戸時代の屋敷跡のほか、弥生時代や奈良・平安時代の竪穴建物(たてあなたても)跡が発見されています。

7月11日、徳川美術館の方が、資料借用のため来館しました。

調査研究課の鶴飼です。

7月11日(火曜日)、徳川美術館の学芸員の方が特別展の展示に使用するため遺物の借用に来館されました。今回貸し出された遺物は、清州城下町遺跡で出土した金箔瓦(きんぱくがわら)・鎧(よろい)の一部、名古屋城三の丸遺跡で出土した徳利・茶壺などです。



貸出しの様子

平成29年度特別展「天下人の城—信長・秀吉・家康」は平成29年7月15日(土曜日)から9月10日(日曜日)まで、徳川美術館で開催中です。ぜひお出かけください。



「天下人の城—信長・秀吉—家康」パンフレット

清州城下町遺跡: 清須市に所在する、清須城とその城下町に関連する遺跡です。清須は戦国時代から名古屋へ移転するまで150年近くの間、尾張地方の中心都市として栄えました。

名古屋城三の丸遺跡: 名古屋市中区に所在する、名古屋城三の丸に関連する遺跡です。江戸時代の屋敷跡・道路や戦国時代の溝のほか、弥生時代や奈良・平安時代の竪穴建物(たてあなたてもの)跡、明治から終戦時まで置かれた第3師団関連の遺構などが発見されています。

7月11日、蟹江町立新蟹江小学校で出前授業を行いました。

7月11日、蟹江町立新蟹江小学校6年生2クラスで出前授業を行いました。今回の授業では縄文時代から現代にいたる様々な土器を用意し、手に触れてもらいました。

はじめは子供たちに縄文土器・弥生土器や陶磁器・須恵器に触れてもらいましたが、子供たちは初めて触れる土器等に興味津々でした。このあとグループごとにまとまり、形や模様について話し合ったことをまとめ、発表してもらいました。子供たちは「口の形が大きい」、「土器の表面が黒い」など、観察して気づいたことを発表してくれました。発表の後でそれぞれの土器等が作られた時代を当ててもらいましたが、職員が正解を発表するたびに子供たちは目を輝かせ、大きな歓声を上げていました。

次に職員が縄文時代から現代にかけての土器や陶磁器の使い方を紹介したあと、子供たちに触れてもらいました。子供たちは「この茶碗をお父さんが使っている」、「この中にお茶を詰めていたのかな」などと盛んに意見を交わし、授業が終わってからも手に取り、熱心にながめていたことが印象に残りました。

これからも出前授業を通じ、考古学の魅力を紹介できたらと思います。



土器等に触れる(左・右とも)



土器等の特徴をまとめる

土器等が作られた時代を当てる

7月7日、第30回埋蔵文化財調査研究会が開かれました。

調査研究課の鵜飼です。

7月7日(金曜日)に調査センターで埋蔵文化財調査研究会が開かれました。

この研究会は近年県内で行われた発掘調査のうち、注目される成果をあげた遺跡について担当者が発表する場として、毎年7月初めに開催されています。



研究会の様子

今年は下記の6遺跡について発表がありました。

・[名古屋市H-95号窯の発掘調査成果](#)...名古屋市教育委員会 岡千明氏

千種区に所在する飛鳥時代の須恵器の窯跡について報告されました。

・[安城市桜井城跡の発掘調査成果](#)...安城市生涯学習部 石井香代子氏

桜井城の時期の溝のほか、古代の集落跡が確認されました。

・[豊田市名勝旧龍性院庭園の発掘調査成果](#)...豊田市教育委員会 高橋健太郎氏

国指定名勝に指定されている旧龍性院庭園についての調査です。

・[豊橋市西側北遺跡の発掘調査成果](#)...豊橋市教育委員会 中川永氏

河岸段丘上で縄文時代草創期の竪穴建物跡などが発見されました。

・[設楽町川向東貝津遺跡の発掘調査成果](#)...愛知県埋蔵文化財センター 樋上昇氏

縄文時代の竪穴建物跡のほか、旧石器時代の石器が多数出土しました。

・[豊田市北野田B遺跡の発掘調査成果](#)...埋蔵文化財調査センター 尾崎綾亮氏

鎌倉時代から室町時代にかけての竪穴建物跡のほか、木製品が多数出土しました。



発表の様子

また今回は特別企画として、「大震災にそなえて～東日本の復興支援に参加して～」と題して、復興支援のため東北各地へ支援に赴いた埋蔵文化財調査担当者による座談会を開きました。調査センターの職員が担当者の方々から調査に関わった経緯や苦労話などを伺い、復興調査や文化財保護の在り方について深く考えさせられる内容でした。

座談会の出席者は以下の通りです。

名古屋市博物館 村木誠氏

名古屋市教育委員会 伊藤正人氏

みよし市教育委員会 嘉見俊宏氏